令和２年度　甲府市立南中学校　**校内研究 全体構造図**

〈学校教育目標〉　心豊かで、主体的に行動できる生徒の育成

〈重点目標〉　確かな学力の向上　豊かな社会性の育成

〈めざす生徒像〉　○自ら学び努力する生徒
○礼儀正しく思いやりのある生徒
○心身共に健康で、たくましい生徒

指導重点　（学校経営方針より）

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善による確かな学力の向上
- ○基礎・基本の定着と学ぶことの楽しさが実感できる授業づくりに努める。
- ○思考力・表現力を高めるために、生徒が自らの考えを記述する場を設定した授業づくりに努める。
- ○「見通しと振り返り」「自力解決」「学び合い」等の甲府スタイルの授業を行う。
- ○生徒一人ひとりの良いところを見つけ、個を活かす学習過程の構築に努める。
- ○自主学習ノートの取組等を通して、家庭学習の充実と学習習慣の確立に努める。
- ○学力・学習状況を全教職員で把握し、学力向上のための授業改善に努める。

自己実現を図る力と思い遣る心を育む生徒支援による豊かな社会性の育成
- ○「特別な教科　道徳」の趣旨を踏まえた授業づくりに努める。

〈生徒の実態〉

【知識・理解】
- ・知識・理解は平均すると標準レベルである。
  しかし・・・個人差が大きい。
- ・知識が相互に繋がっていない。単発の知識である。 関連づけて考えられない。
  つまり、本当の定着ができているわけではない。

【読み・書き・話す】
- ・文章を読み取る力が弱い。
  つまり、本質を読み取ることが苦手である。
- ・説明する力が弱い。
  言葉による説明、文章による説明が苦手である。

〈道徳〉・生きた道徳力を道徳の授業、諸活動、行事など、あらゆる機会を通して身につけさせる。

効果的な働きかけ　〈家庭学習〉　（小中連携）

効果的な働きかけ　〈授業実践〉　〈特別の教科　道徳〉

〈研究主題〉 **自ら気づき、考え、互いに認め合いながら、学び合える生徒の育成**
～ 主体的･協働的に学ぶ授業と「考え、議論する」道徳授業を通して ～

「山梨スタンダード」「甲府スタイル」の授業を意識

〈研究仮説〉

授業の中に「南中としての学び合いの姿」を意識した「学び合いの場」を設けることによって、生徒自身の知識や理解が深まるだろう。
・以下の①～⑦の手立てを入れた授業を通して。

（１）「めあて」を提示し「見通し」を持たせる授業
- ①　「めあて」の提示をすることで、 生徒が本時の学習内容を知り、「見通し」を持ちやすくなる。
- ②　身近な題材や生徒の興味関心を引くような課題設定、課題解決的なテーマ（動き出したくなるような課題）を工夫することで、生徒が進んで課題に取り組もうとする姿勢が生まれる。
- ③　教材・教具の工夫をすることで、生徒の思考を助け、理解の促進（深い学び）への入り口となる。

（２）「学び合う場」が設定された授業
- ④　グループ学習を取り入れることで、生徒同士の意見交換を行ったり、教え教わり合ったりすることで、生徒の思考が深まる。
- ⑤　個で考える時間や全体で話を聞く時間を、グループ学習の時間と効果的に使い分けることで、グループ学習が更に効果的に行われ、個の定着の手助けとなる。

【南中としての「学び合い」の姿】
○自分の考えを持つ。
○自分の考えを述べ、他の考えを聞く。
○他の考えを聞いて、自分の考えと比較する。
○自分の考えを再考し、他と共有する。

（３）「振り返り」をさせる授業
- ⑥　「振り返り」の時間を確保することによって、また、いつ「振り返り」をさせるのか（１時間毎か、課題や単元毎か、またはその両方か等）工夫することで、 生徒の学習内容の定着を助けることができる。
- ⑦　「振り返り」の内容を工夫することで、学習内容のポイントを絞って、生徒に再認識させることができる。

〈推進組織〉
- ・一人一実践授業の相互参観による実践交流
- ・「特別の教科　道徳」の授業実践
- ・家庭学習の方法の共有